

行政視察報告

委員会名	総務委員会
視察日	令和5年5月10日(水)
視察先	愛媛県松山市
視察委員	筒井 たかひさ 委員長 細木 まこと 副委員長 梅沢 とよかず 委員 高木 信明 委員 小山 たつや 委員 夏目 佳代子 委員 米山 真吾 委員 三小田 准一 委員 舟坂 とも 委員 みずま 雪絵 委員
調査項目	選挙クルー・プロジェクトについて 選挙コンシェルジュについて
事業概要	若年層を中心に低下する投票率の問題を解決するために松山市選挙管理委員会が行っている次の取組を視察する。「選挙クルー・プロジェクト」は、市が行っている投票率向上への取組に賛同するサークル等の団体を「選挙クルー」として認定し、組織内外への投票呼びかけを行ってもらうこと等を通じ、より多くの方に積極的に投票していただくことを目指すプロジェクト。「選挙コンシェルジュ」は、平成26年2月から学生を選挙啓発のセミプロ「選挙コンシェルジュ」として認定し、協働している。現在、高校生、専門学生、大学生約20人で構成されており、選挙啓発はもちろん、主権者教育などを行っている。
視察内容	<p>1 事業費・予算 令和5年度 (事業名) 若者と取組む選挙啓発推進事業 (事業費) 約143万円 ・選挙コンシェルジュ謝礼金 約67万円 ・選挙クルー謝礼金 約17万円 ・その他(消耗品・印刷費等) 約26万円 ・職員時間外手当、市内旅費等 約33万円</p> <p>2 成果(メリットや効果) 松山市が考える成果としては、行政からの一方的な啓発ではなく、啓発される側の若年層の意見を取り入れた取組を行えることが、より効果的な啓発事業につながっていると考えている。また、チラシやポスター、啓発絵本等は選挙コンシェルジュが企画からデザイン・撮影等まで行うため、業者発注と比較しても安価での作成になっているほか、大学での期日前投票所の設営も選挙コンシェルジュが行い、報道対応までもらっている。結果としてお金をかけないで選挙周知・啓発ができていけるといえる。そして、選挙コンシェルジュの学生にとっても、これらの活動は貴重な経験であり、学生の視野を広げる一助にもなっていると考えている。</p> <p>3 今後の課題 現在、選挙コンシェルジュが10名、選挙クルーが6団体あるが、活動が一部の学生・団体に固定化されていること。一度は興味を持って選挙コンシェルジュに参加してくれたものの、あまり活動に参加できていない学生をどのように巻き込んでいくのか、活動しやすい雰囲気づくりが課題。</p>
主な質疑内容	<p>(問) 選挙コンシェルジュ及び選挙クルーの導入の経緯について、選管事務局側からの発案なのか、高校・大学側からの発案なのか。また、年間の活動量と出前講座の時間割について伺う。</p> <p>(答) 外部からではなく、以前選管事務局にいた職員からの発案で、大学生を使って啓発をすることで投票率を上げることができるという提案を受けて大学生をコンシェルジュとして認定した。選挙コンシェルジュの活動量については、選挙があるときは1人あたり約60時間、1回あたり2、3時間活動するので、1人あたり30回程度。出前講座の時間割については、先方に合わせて15分コース、45分コース、90分コースの3つが多い。</p> <p>(問) 投票率が低い20代の方に、どのようにコンシェルジュとしての動機付けをしてきたのか、工夫したことなど教えていただきたい。</p> <p>(答) 市内の5つの大学の先生方にコンシェルジュについて理解していただき、学生に周知してもらっている。また、平成27年度から、継続して高校生に対して主権者教育を行っていることから、大学生になって自発的にコンシェルジュになる方もいると考えている。</p> <p>(問) 選挙コンシェルジュや選挙クルーの活動で、特定の政党色は除外できているのか。</p> <p>(答) 特定の政党や特定の候補者の応援はしないということは事前に説明している。他市では、選挙啓発のSNSのアカウントを団体自身が持っているところもあるが、松山市では責任を持つため市が運営している。</p>

行政視察報告

委員会名	総務委員会												
視察日	令和5年5月11日（木）												
視察先	愛媛県今治市												
視察委員	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">筒井 たかひさ 委員長</td> <td style="width: 33%;">細 木 まこと 副委員長</td> <td style="width: 33%;">梅沢 とよかず 委員</td> </tr> <tr> <td>高 木 信 明 委員</td> <td>小 山 たつや 委員</td> <td>夏 目 佳代子 委員</td> </tr> <tr> <td>米 山 真 吾 委員</td> <td>三小田 准 一 委員</td> <td>舟 坂 と も 委員</td> </tr> <tr> <td>みずま 雪 絵 委員</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	筒井 たかひさ 委員長	細 木 まこと 副委員長	梅沢 とよかず 委員	高 木 信 明 委員	小 山 たつや 委員	夏 目 佳代子 委員	米 山 真 吾 委員	三小田 准 一 委員	舟 坂 と も 委員	みずま 雪 絵 委員		
筒井 たかひさ 委員長	細 木 まこと 副委員長	梅沢 とよかず 委員											
高 木 信 明 委員	小 山 たつや 委員	夏 目 佳代子 委員											
米 山 真 吾 委員	三小田 准 一 委員	舟 坂 と も 委員											
みずま 雪 絵 委員													
調査項目	観光振興について												
事業概要	今治市では、観光を軸とした地域活性化に、市民、行政、民間事業者、各種関係団体などが連携して取り組むための指針としての「今治市観光振興計画（2021 - 2030）」を策定し、観光振興施策を実践している。その中でも、特に「しまなみ海道サイクリングロード」を活かした取組を中心にサンライズ糸山で現地視察を行った。												
視察内容	<p><今治市観光振興計画の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目指すべき姿 今治市が迎えている人口減少型社会において、観光振興計画により地域の活性化を達成している状態 2 計画期間（目標年次） 2021年度～2030年度（10年間） 3 目標 <ul style="list-style-type: none"> 目標1 観光産業の発展、特に民間事業者を主体とした観光産業の集積を目指す 目標2 「サイクルツーリズム」を中心的な取組みに位置付け、世界的な先進地を目指す 目標3 シビックプライドを醸成する様々な取組を行い、「関係人口」を創出、その先にある「定住人口」の増加を目指す 目標4 継続的な観光需要を創出し、持続可能な地域の実現を目指す <p><瀬戸内しまなみ海道について></p> <ul style="list-style-type: none"> ☆一般社団法人 しまなみジャパン 前身団体である瀬戸内しまなみ海道振興協議会が解散して、2017（平成29）年3月に設立。プロモーション事業とレンタサイクル事業を行う。 ☆自転車通行空間の整備（路肩拡幅・自転車専用通行帯） ☆ブルーライン <ul style="list-style-type: none"> <設置目的> <ul style="list-style-type: none"> ○サイクリング推奨ルートを明示し、多くの方に分かりやすい案内を行う。 ○車道を走行する自転車利用者に対し、左側通行の原則に対する注意を喚起する。 ○自動車運転者に対して、自転車への注意を喚起する。 <距離表示> 今治～尾道間 1kmごとに設置 <方向表示> 交差点など多方面からの流入がある箇所、迷いそうな箇所に設置 <距離標> 主要地点までの距離と方向を表示 ☆その他 <ul style="list-style-type: none"> ○サイクルステップの設置 ○トリップアドバイザーでの紹介 ○しまなみサイクルオアシスの整備 ○サイクルスタンド設置 ○自転車組立場の設置 ○松山空港（松山空港ビル株）の取組 ○手荷物の当日配送サービス「しまなみ海道手ぶらサイクリング」 ○SHIMANAMI モニュメントの設置 ○姉妹自転車道協定（台湾日月潭サイクリングコース） 												
主な質疑内容	<p>(問) レンタサイクル利用者の年代別の内訳はどうなっているのか。</p> <p>(答) 連休だと家族連れが多くなっている。市では全世代に対応できるようにしている。</p> <p>(問) 市と旅行会社が提携して、東京圏内から船で自転車と一緒にしまなみ街道に訪れることができるような取組について考えているのか。</p> <p>(答) 今のところ考えていない。愛媛県まで来られた方への対応は考えている。尾道は新幹線で行けるが、愛媛県は来られる方が少ない。愛媛県は道後温泉が有名だし、関西方面ともフェリーで行き来でき、様々なアクセスの方法がある。愛媛県では今年度からそれらを活用して県内への誘客の取組を始めたので、県と連携していく。</p>												